

広げよう平和への思い

問い合わせ 人権・男女共生課 ☎38-2055

今年は、日本が悲惨な戦争を経験してから75年を迎えます。

芦屋市では、7月13日から8月23日まで「みんなで考えよう平和と人権」を開催しています。

芦屋市でも、終戦間近の昭和20年5月から8月にかけて、4回にわたる空襲によって、総人口の約半分が被害を受け、家屋は総戸数の約4割、特に学校校舎は8割を失うこととなりました。そして何より耐え難いのは、139名の尊い命が犠牲になったことです。

この惨禍を2度と繰り返さないために、戦争の記憶が風化しないよう、本市では以前から戦争を体験された市民の皆さまの声を記録に残してきました。

平成29年にはその記録を再編集し、平和記録集を発行しましたが、その中には、前述の昭和20年5月の初空襲の様子など生々しい記録も掲載されています。

これらを読むことは大変つらいことです。しかし、これらの記録にふれること、また、数々の戦争遺品などを通して、平和は当たり前にあるものではなく、人々の不断の努力によって、築き上げられるものであることを、私を含め、戦争を知らない世代一人ひとりが、自ら考

え、次世代へとつないでいかなければなりません。

戦後の日本が、平和な時代を築いてきたことは、世界に誇れることですが、世界に目を向けると、今もなお、悲惨な戦争やテロにより、多くの尊い命が奪われていることを忘れてはいけません。

私は、平和を作る第一歩は、相手の思いを汲んだり、思いを巡らせること、思いやる心によって、人と人がつながりを持つことだと常々感じています。

今後も、この思いを忘れず、毎年続けている「みんなで考えよう平和と人権」事業をはじめ、様々な平和事業や核兵器廃絶を実現するための「平和首長会議」の取組を通して、市民の皆さまとともに、一歩ずつ平和な世界の実現へと歩みを進めてまいります。

表紙の写真は、コロナ禍においてマスクを着用し、密を避けながらも真剣なまなざしで平和を学ぶ子どもたちです。

こんな時だから、大切なことを大切に。

芦屋市長 いとう まい

芦屋のまちが焼け野原になった —阪神大空襲の惨状—

芦屋市は、昭和20（1945）年5月11日、6月5日、6月15日、8月5日～6日の計4回、米軍による空襲を受けました。これらの空襲によって139名が亡くなり、市街地の約4割が焼失しました。

昭和19（1944）年から始まった米軍のB29爆撃機による日本本土空襲は、当初は軍需工場を攻撃目標にしていたが、目標が雲で見えずに破壊できないことが多かったことから、焼夷弾（しょういだん）による絨毯爆撃（じゅうたんぱくげき）で市街地を焼き払う方法に切り替わりました。これは一般市民を殺傷する非人道的な無差別爆撃で、昭和20年3月10日の東京大空襲を最初として、名古屋（12日）、大阪（13日）、神戸（17日）が焼き尽くされました。5月以降は中小都市も空襲の対象となり、6月5日朝に受けた2度目の神戸大空襲では、芦屋市にも焼夷弾が投下されました。6月15日午前の大阪・尼崎空襲でも芦屋市が爆撃されました。

そして、8月5日深夜～6日未明の空襲が、芦屋市に最も大きな被害をもたらしました。この空襲は、西宮から御影の市街地が攻撃目標で、「阪神大空襲」と呼ばれています。8月5日深夜に飛来したB29が大阪湾上空に照明弾を投下し、市街地が真昼のように照らし出されました。間もなく、130機のB29が芦屋市街から香櫨園、西宮市街へと焼夷弾を投下し、火の手が次々と上がり、火災がみるみるうちに広がっていきました。焼夷弾の雨が降り注ぎ、一面火の海となる中、爆音と高射砲の強烈な音が、逃げ惑う人々の叫び声をかき消しました。芦屋の市街地は一面炎に包まれ、火の粉で真っ赤な地獄の空となりました。

この空襲の惨状を語った市民の証言があります。「浜芦屋町の家族はお父さんが出征中で、お母さんと子ども二人が防空壕の中で蒸し焼きになり、小さくちぢんで死んでおられたのは気の毒でした」、「防空壕の中をのぞくと、お母さんが1歳の次女を抱き、5歳の長女と3歳の長男が足を伸ばし、壁にもたれて死んでいました。窒息死でした。防空壕の入口で焼夷弾が燃えていて、出るに出られなかったんです。みんな口ウ人形みたいでね。顔だけはオレンジ色に変わっていました。もうかわいそうで」。この空襲で、芦屋市内には焼夷弾が約1,500発、小型爆弾が約40発投下され、その被災状況は、死亡者89名、重傷者44名、全焼2,732戸、被災者16,379名となっています。

今から75年前、芦屋が空襲を受け、多くの市民が亡くなり、何の罪もない多くの子どもたちが犠牲になりました。生き残った人々の多くも、心に大きな傷を負ったのです。戦争の恐ろしさをしっかりと後世に伝えていかなければなりません。



防空訓練（東芦屋町）

日本と芦屋の太平洋戦争関連年表

	日本	芦屋
1941年	太平洋戦争（～45）	
12月	真珠湾攻撃	
1944年 11月	東京がB29の初空襲を受ける	
1945年 3月	東京大空襲	
4月	沖縄に米軍が上陸	
5月		第1回空襲（5/11）
6月	沖縄が占領される	第2回空襲（6/5） 第3回空襲（6/15） 学童疎開の指令が出る
8月	原子爆弾の投下 広島（8/6）長崎（8/9）	第4回空襲（8/5～6）
	終戦（8/15）	



被災地域（赤色部分）が書き込まれた芦屋郵便区全図（昭和21年2月15日作成）〈芦屋市立美術館所蔵〉